

へうげモノ

THE HISTORY OF THE

Hyouge Mono 17

YOSHIHIRO YAMADA

MONDAY (JUNE 2001)

MORNING KC

KODANSHA

2238

Orbis Funda

Iryoku Tokugawa

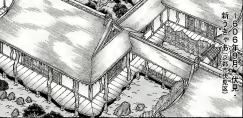
Roburida Kasei

Chacha

Nagayasu Ohnishi



1606年9月・伏見・
新うきやあ（京都・大京区）





昭和七十六年

若くなくて純真じゃない時代











同月 肥後国・熊本城
（熊本市中心部）



鯉の如き
反り返った石垣
に……

唐の陸しき
山水画の如く
五層の櫓が何處
も……



どうい

さすが
上田殿ッ

その防衛ッ



この城は明軍の
攻めでも防げる
よッ

石段は一段一段
奥行と進みを覚えて
よりづらくしたり
……

本丸までの路を
防衛も難がらせて
なッ



これを城中の
城に……なる！

太田様が見れば
でかしたと喚か
れますぞ!!



い……いや
王様は……

女子の腰帯が如き
近頃の白蛇には
うんちりして
いたか……



好みが一緒
ね！

これに「源」を
取り入れた茶屋が
加われば完璧よ！



それがし、茶屋に
物件を取られて
ましてなあ……





關後は關原の島本
を約える要隘ね

だから立派な
城を築くのは
道理よ



伊達ですら蒲川を渡り
仙台城に突撃を喰け
なんだが……

反抗心ありと
怪しまれます
まいか……や



でもそれは
表面き……

女房にも
言わない本心
では……



九州を含めた
西国勢二の拠点に
するつもりね

いつ大戦が
起きても良い
ように











全ては父上の
御意を以て……

左大臣を
改心させるための
行いにてござる

この功に報いずして
それがし山城守は
名乗れません



かぶき衆らとの争い事
で、それがしを誣った
罪に……

傷は深くもはや
右腕は上がらぬよう
に……



久し振りに
見ます 大層



御は
似合われぞ

父上とて

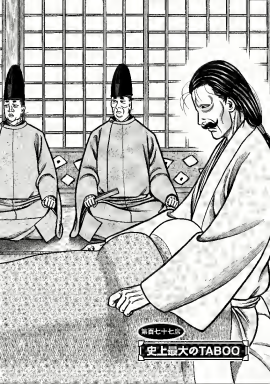












第四十七回

史上最大のTABOO







特に小堀殿は京
廻船 江戸を行き交
しておるにも拘らず

手放かりなく
中々の作事をして
おると嘆心しました



増田中の御所は
星平はりました

甚請には弟子の
坂倉殿や小堀殿も
係わつておるようで



はんまは
吉田はんには頼んで
ひょうげた時に
したかつたんやが

御用はんの
ごり押しに
負けてしもた



御々に……

御々に公儀御の
お通でやれる事が
限られてきよと





それを盗うて
強盗らが益々
暴れ出し……

落着きに立小便
……建物壊す
なでな……

たけ

私もかばいきれ
へんように
なつてやます
……



放逐すれば
さらに徳川に
つけ込まれ……

世中の意向を無視
して、期明まで
黙かれかねませぬ
ぞ



私もそれを遂じて
禁命を出されて
はるんやが……

一向に改まり
まへんのや……

本陣及びに御前様が
御前を結されるは
……

それがしにも御う
ちがいます
……





蘭曲を弾いても
公家達の私への
支拂がある限り

蘭中を蘭川一色
にはさせまへん

それにはまず
身体をしつかり
治さんと……



そして 還帰した
晩には首飾はん

私が元氣な事を
天下に示す茶会を
催しとくんははれ

いかな趣向でも
受けて立ちます
え















良い機会にて
白状しますと……

石見……佐賀……
伊豆と 越山の諸地
は焼くかあれども
……

そこで私が思を
付けたのが、
……にて

少しずつ産物が
減ってきておるの
です

あの巨大な山々には
まだまた金銀が
眠ってゐる……と

悪い例なき大御所様
に 財の減りゆく
御座候……

財の増えゆく伊達様
に 御財多き貴殿と
懸念の至様候……

秤^{はかり}にかけて

せーのっ
ドン!



伊達政宗

南無阿弥陀で
財はさらに倍
！



そこまで仕を
明かしたのか
……………

もはや裏切りは
許しませんぞ
長次郎

そして
今一う……………



すでに我らは
今井兼助を逃に
南無と交際してある
が……………

賄賂がさらに
うまくなる前例は
いずこ……………

小悪行長の如く
失敗せぬという
理由は!!



されど私には
金もありません

平玉に取られる
事は ますますあり
ますまい



南蛮国の故す
最たる物は
土地と金……

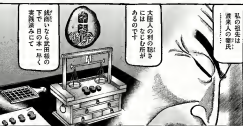
小西は土地の勘定
しかできず 文庫が
壊れこぼれまわった



貴族は御堂様でも
あるまいに……



それだけで
うまくなるものか
否や……



私の祖先は
渡来人の豊氏……

大陸人の物の置き
には なじむ所が
あるのです

純粋いなら武田様
の下で 日の本一早く
実戦済みにて



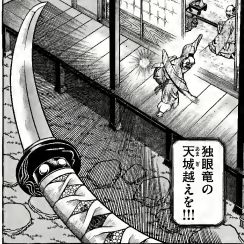
問題は伊達様
らに……………

天下を牛耳る戦悟
が真におありか
どうか……………

この博打に乗らば
もはや彼には
引かせぬぞ







独眼竜の
天城越えを!!!



第百七十七席 終





第七十八回

死して屍捨う者なし



何たる

何たる
石組みぞ!!

天よりズゴツと
石矢をブツ刺し
たが如き憂快さ
よ!!

クククク



いやいや 旦那
上田屋敷にあった
庭石を悪い出させて
なッ

宗匠ッ



わざわざ使えより
かたじけなく

庭の石を聞くが
味うてゐるか



何をお嘆いに

紀州の雲を思い
郡の国東連山を案配
した……

節高な節では
ないませぬか





今朝れられて
は困る

散骨には悪魔を
大御所様なれど

悪世に法華を
付けるには
まだあの御方の力
が必要やん



清王殿は大御所様と
悪魔様を食わせると
思っていてござったが

何やら大御所様の
方は 体調優れぬ
ようで



とはいえ 一面二面的の
策中に別を打たれても
きつい

平うに近衛様の
元氣な御姿を
世に披露すねばの
.....



これがまた
でかいのだっ

道具前後になる
やん 茶席には
使えぬ程になっ



茶席を聞くに
何ぞ高い茶でも
..... ?

近衛様より
大井戸茶碗を
頂いてのう

井戸は完全無視
だったと言われて
おるが……

よほどの大鑑味いが
あれを造らせたので
あろう……

そこではたと
思いついた
……

ひとつ編みが
ある 上田殿

武家の腕を
見込んで

い……

一体何を
……

その大井戸を
うまく割って

小さくせん







大群衆にためエの
定数な様を見せてエ
のよ











父上が駿府へ
移られた後も

江戸を離しう
取り締まるゆえ
御安心を



似てきたの

石田三成に



さみさみ

民の不満を
空襲攻撃するを
終いにせねば



だが……

暗闇にて無中にも
目を光らす凶徒
ならぬ私には
助かる







割るに遊びない種
カイヤギも兎事
ですや.....



割って種がば
石田の二葉が如く
面白き所作も
生まれよう



肚を決め申し
た.....



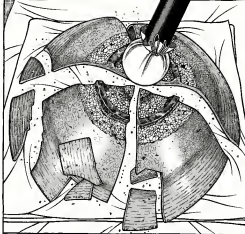
国は丸めども
それがしは武人
.....



木桶では
なく

使い慣れた小刀
にて挑みまする
目









もはや暗きに閉じる
涙を あえて涙手に
見せるしか……

金では涙熱に
なじむゆえ
彼の熱で……



ああ……

これでは小そう
した童までは
伝わらず……

傷物のわび病を
使うておると
しか思われぬぞ



何にせよ
赤きは美月ぞ

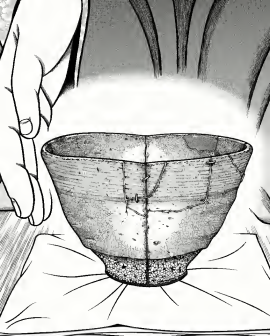
私は懐石の受けを
探しに 大和の
自領へ赴くゆえ
……



語るまで
うまくは上げる
のだ!!

おもむくば
ただでは済ま
ぬぞ!!













母さんに古田はんの
横着は悪いとおす
なめ……

このおもしろい形の
肉付に……箸が通み
ますわ……



私をまた養食へ
贈う気ですかいな
古田はん



以前の如く
もつと湯を啜って
下さい近衛様

冗談の効れも
無うございますよ







どうぞ 締めぬ
内に御上がりを

その汁を
黒米にかけて
御食べに







● 市僧并子





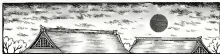








「醍醐の御茶も成っていたらしい。」







今日の宴会は
全国へ知れ渡り
ましよう

では



そう申すな
上田殿っ

カサでも食し
新酒の如き心遣に
流せいっ



手柄を家臣が
持ちぬめた代償
……………

高うござます
ぞ……………



同日 大井戸町 大井戸町 大井戸町

何ぞ……………

大井戸町 大井戸町
…………… !!



大井戸といえど
あの方にはつまらぬ物
なのだろうが……

やる事が年々
大層になってきた
わ……………



ま……その方には
わからぬだろうがの

面白い茶席の
良事は



……この大井戸も、
……

その件も尚の
駈附の大層所へ
伝えます



しからば伝えるは
茶中の談話のみで
よい

金運雲には今の所
口を挟む必要なし
……………と



今日おきて様候
したわ……………

御茶席様の
かぶき者への関与は
まずない……………と



総いだ蒸桶の良さは
わからずとも

大井戸の桶底は
充分わかる

城一つに相成
する値打ちは



サッ
ッ



勝手に軽々と
壊して良いはず
がない……



いかに天下一の
名人といえど

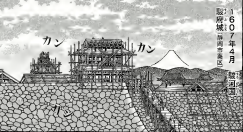


古田織部助
隠忍……

世の宝を
漏なう者なり

1607年4月
駿府城 屏内町裏区

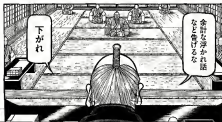
駿河国



私にカリを
喰わせろ

第五十八卷

有樂齋で逢いましょう









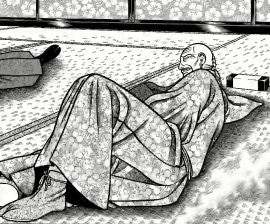








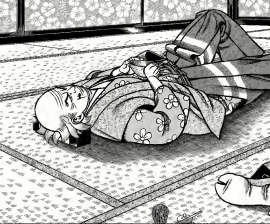




近衛卿の茶会が
えらい評判になって
おるわ……

禁中の気配に
西国の諸将が
こぞって貢ぎ物を
贈り……

貴様様に至っては
障物五白灰の中に
四千両をも仕込んだ
よう……



だからお前は
間抜けなのだ



皆が金子を賣る物に
勝って勝つてゐるは
何故ぞ？



結構

その金子にて
船中が瀬川の險灘を
断ち 豊直をすれば

茶会を開いた
甲斐がござる

徳川を差し置き
おらむみに資金を
渡せば……



望みありと見なされ
改易の口実とされる
からよ



いずれにせよ
献金がばれば
分前にも賈めは
及ばう



ゆえに
我が名を隠めた
……と??

近衛様の実舎は
所詮作法も知らぬ
阿呆の戯れ……



多くの貴重物は
ただの快気候いという
体にも堪へうて



礼は
要らぬぞ

お前には、憐れの
左門を改心させた
偉りがあるゆえな

なれば
異体合体へ向け
動いて欲しい

大御所様には
随ひ参の御しきを
御座らせ申した

後は茶々様の
心をすり磨らせ

二人が会う機を
作らねば……

人の色恋なや
……

その物語いは
何ぞ傳が……

所詮互いの
勘違いから
始まるものよ

折を見て
お茶々に申して
みるわ……





高僧を
降せ

次は御茶を
進めす



やはり折置洲頭様より
語が伝わるが趣意

暇な左門を
江戸へ向かわせ
ます御座候の旨に
入れるか……



いや……
有難様は御食に
なれりやう

歸つてすぐに
御を繰り直し
申す！

これにて！



は



俺が用意した御
ではない……

小姓が誤つて
置いたか……？







第百八十一回

旅姿一人男







その野心に
ドン!

なんだって
源平 頼田の
優柔道師!

源平好き
仕事好きで
魅力溢るかに倍!



源平だねっ
シッシー!



いかに源平天下一の
金持ちとはいふ……

さすがに源平様は
ものにできずまい

まず源平が
左様を憐れりを
許しませぬぞ……



源平様とて、同じ
源平様だったろうて

源平様の小僧から
源平にまで
成り上がった私には
ようわかる……







いま一つ

さきげなく將軍様
に、茶々様の事を
告げるのだ

いちいち
うるせえぜ

この顔で
僕の事は
わかんたろ



ザッ

ザッ



ザッ



大御所様を
好いておる……と

こちらの方が
願しいぞ

……









名々聞々原での
盛懐を忘れ……

そろそろ件を
置そうでは
ないか

それが
天下泰平の
ためぞ





そこで然則代は「かきうの珠聯な者は初めてだ」と……

己が船より三分の銭を取り出し、足方に三万ずつ年たとの事……

我が忠臣
板倉勝重の
名残きぞ



何が
言いてる?

私も貴殿らに
身銭を切り……

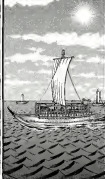
三万両ずつ
与えん

貴殿らが善人
だと信じて

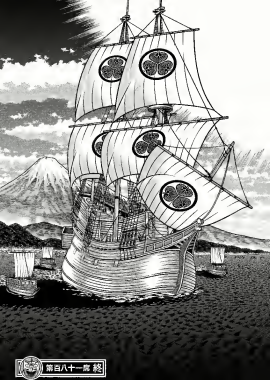














織部や伊達は
今や腰抜けよオ

これからア
俺だけを
見なア

僕の好きな老師

第四百八十二回







同年12月 駿河国 清水

「御前様御免」

これはこれは
アダムス殿ッ



はーッ……

どこかで
お金いした
ござマスか？

大御所様へ年貢の
納付に参った
大田原勘助にござるの

これは
お近づきの印に







何となくの
大空を飛ぶす
かたさ

聞きておかし
解体したとか

歴大な手間をかけ
なぜ方難な物を
運ぶのやら……



古の土器からして
そうですからのう

あの器は
流りより器を
重んじておるに
て……



我らは何故か

理のみでできた
物には満足すの
で……



流り……とは？

使い勝手に
なれる

私も流り商分
幾六分を以て
物を流すており申す



もともと私の
申す量とは

一笑を得るための
成分が大きいです
がのっ



あの器の柄や彩は
出来損ないでは
なく……

見る番を楽しま
せるために
あえて



なぜだ

なぜそんなに
笑いたがる

人を見下したり
馬鹿にしたりに
いるように見えぬ
のだが……



大御所様なら
江戸の大川にて
乗られてこそマスが



して……..
アダムス殿

その試し乗りに
大御所様を御乗させ
られぬものですかの
………



せめて大御まで
いま一度



いやいや、病を
患われた大御所様
に………

早く回復して
歌しいと
思いましたな



戻りばかりでなく
たまには船上で
ゆるりと茶でも
………と

道中退屈せぬよう
おくに一座も誘う
ゆゑ………

富殿からも
誘うてみては
くれませぬか？











上方はまだ良い
のですよ！

東の方は荒くれ者が
多く、手強きも
される始末で……



その方はまだ若く
経験や実戦が浅い
ゆえ……

それを見抜かれ
なめられておる
の上



泣き書を
申すでない

しかと覚悟を持ち
真の戦死者になっ
たのだろ……



言う事を
聞かぬは誓ふ
……

それができねば
理想の実現をぞ
叶わぬわ……

信長様が安土城を
造りし時の如く
……な





それとこのう

我を逃すのだから
心付けを逃すは
必死や……………



座敷にて示現流を
習わされたので
あろう……………

我らは所詮人殺し
ゆえ 良い面ばかり
するでない……………



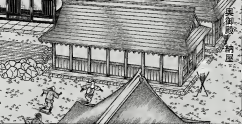
御座以外に身銭を
切ってこそ 物事が
滞らかに進むのだ

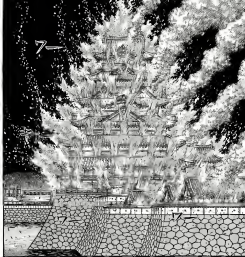
近江生まれの
その方なら……………

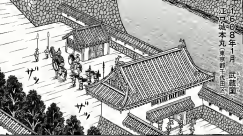
少しは
近江商人の機知を
学ぶべきだよ

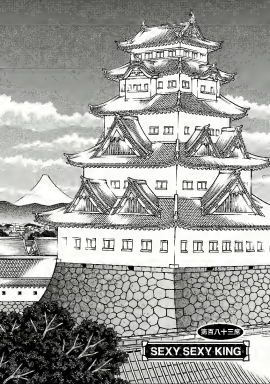












第一百八十三章

SEXY SEXY KING

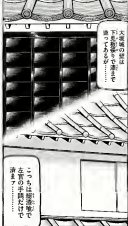


大連城の壁は
下見附まで届き
通ってあるな……



でけえだけの

生つちよるい
実務大守ア



こつちには隠れ
左官の手間だけで
済まア……

※まじの料理に連れて来ておけーたるの。



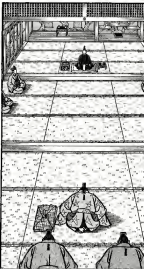
無駄を言いて
多くの城を奪くつもり
なので

それに潜るは
火にも強いです



同じ通りの隠れ城が
焼けたんだぜエ

防火の術としたり
聞いてあるからア





大御所様の
御安否は……？

気が配で
なりませぬ
御上



はるばる
大坂より御西

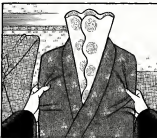
早速心配事を
御尋ねします



本丸の一羽が
焼けたが……

父は無事御殿より
脱し、板倉町にて
越年された由……

今は火元を調べ
原因を際つて
おるとの事





あの漢平好きを
お母が……

何故かよるな
賢次剛愎な物を
………



内々の事にて
………



御見立ては
茶々様にごまい
ます



宇治の雲隠茶も
博考したゆえ
………

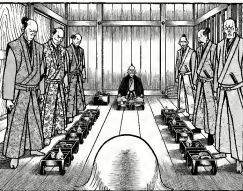
この先は茶々でも
慮てながら

茶々様が犬御所様
に惚れておられる事を
許しう













いやいや
龍田の左門路より
便りを頂きまして
なう

茶屋にてつい
其々様の意心を
察してしもうた
……………と

それがしは僧でしか
知らなかつたのですが
……………

秀榮様からの
願では何と
……………



……………

笑わぬ……ぞ？

決して

茶々時曰く
「茶々の残り身は
幸い……………」

難を逃しき共に
側にいて欲しい

陰謀を仲たと承知
でも 家康公の
事が頭を離れぬ！
……………と







難近しも貴殿なら
承知であらう



好いでもおらぬ
女子に いきり
物つ理等うないわ



仰せなら
すぐにでも……

場を
設けますれば



何を御覧ですか……

朝日様と申す
通じなれた方の
御会時な……

高々様で申すに
はすべからず
まい……



いまだ心癒る相手
がおるとすれば





1608年2月 大坂城
本丸奥御殿(大坂市中央区)





茶々様に
惚れておられる
ようで

第百八十四話

We feel FREE





女將様一軒が
大御所様の御醫より
聞いた話では……

蘭蘭一つで大坂を
仕切られる茶々様は
いたく感心して
おられ……

殿様さまに
ただの男と女として
出逢いたかったと
涙め息を吐かれて
おるとな……



様のお返からも
全く聞かぬ事ぞ

大御所様の立场上
公には仰りにくい
のでは……



ふん

古傷に
惚れられたとて
何とも思わぬわ







その方にもまだ
残いてもらうを

うそで
かぶる飾りの
場を助けるに



それは古^{いにしへ}に
伝^{つた}えてある

奴が何とか
しよう

して……



真に……

私や有^あ楽^{らく}堂^{だう}様の
側に 置いて
下さいますか？



彼^{かれ}には領^{りやう}室^{しつ}が
三人おる……

もう一人
増えらるとなると
大^{だい}変^{へん}だが……



親^{おや}連^{れん}合^がの機^き
には その方の
望^{ぞう}みも……



あ……

同年3月 伊勢湾



すげえぜ
すげえぜ
おくにイ

血に喰われながら
歩いて旅してた
俺らがよ……

こんな激動な船で
同行に行ける
なんてよ



浮かれてられん
の……

今度降りかも
よ……

黙っててくれた
織部殿様様
だわなア



光徳のことが、より
面白そうに見せられ
なきやア……



茶々藤ア おぶき藤り
を見てるっていう
じやアないかア……

あたいらを真似た
興味の藤りを
……



たちまち噂が広まり
呼び手がいなくなる
やも……



いやあ……

一度船上の英座を
設けてみよう
ございまして……



如何ですか

特別に読んだ
徳石に藤は
……





イスパニアの持つ
日の本沿岸の地図
よ……

もつと
秘密な物を
こっそり入れマス

大御所様御免と
あれば 去後の書
も協力してくれ
ゴゼマス



改めて
紹介致す

いまだ
朱子学に傾倒せし
幕府の儒官
柳道春也



大御所様の
御同乗は
口外なりませぬ

今度の件は
内密の事にて







茶の湯は
書院の高より数丈
百年を咽え……

その間
様々な人が
生まれ……

ついには御茶湯様
の武家の茶を以て
完成に至りました



なれば それを
不動のものとし
……

茶室はそれを字上
修練道場となる
べき……



つまりは「茶の湯」
などという
曖昧なものでなく

「茶道」と化す
べきかと





変幻自在
融通無碍

かような
「茶の湯」で
良いのである









1868年3月 大坂
幕府・新選組・大義市中に

面会の使用が
調いました
大義所様

幕々様は明日
大坂城本丸の
御茶室にて……

かぶき廻りを
鑑賞なさる由
……

……
……

なさってしまい
た事……

幼き頃より
御茶を嗜み……

幸の御前で
御茶に立られた様の
大義所様には
遠作も無い事……

茶屋の女主人を
演じて頂きたく

面白八十五歳

泣くなベイバー





何故そこまで
せねばならぬ?

何卒御手紙
をば

大御所様が立腹を
恐れ 必死に請する
その御返に……

必ずや茶々様は
胸打たるるに
相違なく……

内儀なものを
お返れや……

その事実には御切や
既に 置ぶる心を
忘れて申くので
ございます

むろん
彼々の理想を
申したまで



どうして……

その場所の
お飾りは……

先は文相所様の
政所・御膳所が
御三つ



てくられる前
後見でかぶき廻りを
見た御膳所は……



きつと……

きつと御膳所
とす……

ゆるりと腰を丸め
できる世を懐いっつ
半世ふれたに
遠いなく



天下一の廻り手に
ふさわしき物をと
おくにへ贈られた
とす……













最、於天竺の都を
伏見城にて遷都され
た大御所様は……

大御所様も
いかな太子が御み
なのか……

おね様を待いて
おったは聞いたが
……

「さぬう」と実に
悔しそうな御顔を
……



今や刑務の
萬々様の中にも
それを見て致しう
……

乳離れもせず
人質に置かれた身上
ゆえ、御性に就いて
おるよう……



ホ・ホ・ホ



ホ・ホ・ホ





※「源氏」みてにはさしすれやれてお懐のとうをものゝあひのあかては終ひの巻と。









それがお出来に
ならぬなら……

かつて陛下も
立たれた この
横顔を……



下手な文句で
汚しなや!!!











1608年3月
摂津国 大阪湊



我らに
脅めはなく

駿府において
かぶき廻りの興行を
禁ずると……と

第百八十六回

けだもの来たりて



そんな
………!!!



かぶき踊りは
風紀を乱す………

喧嘩 喧嘩の
元になるとの
御せ………



ひとつ
勘定取ろう



とぼつちりを
喰わせて
すまなんだ………

罪滅ぼしに
………



寺がままだは
おくに一座は
喰きられん

家来く世に
受け入れられ
たかつたら――

「乙」に教する
事ぞ



雲の「甲」たる
顔姿を見つめ直し

色気に頼らず
面白う崩すのだ

私好みの
器の細くな



顔金は完全に
失脚と認めたが

大御所様は何やら
まんざらでも
なかったよう……

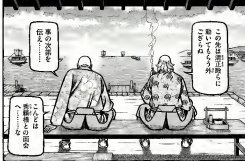
なにけ！



おくにには悪い
が助かった

お茶々にあわせた
我らに助めがない
とは意外と……







新たに
官位を授す

幾々の作事 作庭
が功を認め……



ようやった
作介





向月 保元平治の乱
定知 家

やはり大御所様の
想い通りでは
ないか



家の時社などに
分教させておるの
やも

わがわが大坂より
京へ向かう道中を
見たのだ

必ずや
何かある



この教書 禁中を
閉ざす決べましたか

西国大名からの
貢ぎ物は見つかれど

池田より自立に
足る資金の調は
とれたも



もし西国大名と
陣中が戦態に
なっておれば……

いずれ争を
開き伏し、戦命を
出さず……

我らを戦敵と
して討ちに
来るやも……



そうなつては
もう遅い

そやなる前に
どう動く？

どう動く
秀忠??



いや……

西国は水害に
悩まされる



やはりまず
この河内城を――

東西が陣間の
要として
強化せねば



………



………

河にて船の攻めをも防げる台地を………
選ばねば………



隆盛は那古野に
天下無双の城を
築かん

昔蹟は引き継ぎ
西國大名に命じ
………

膨大を出費にて
力を固ぐのだ！



勘定よ



それがしは
江戸を……

一層緊固に
敷します



丸岡のお前に
いずれ馬士野を
任す

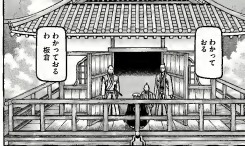
それまでに
私の側で
多くを学べ



上方が乱れの
象徴たる……

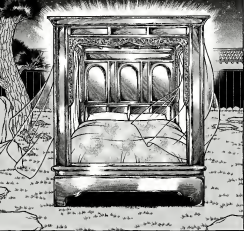
かぶき者や
かぶき踊りも神して
ゆきますれば

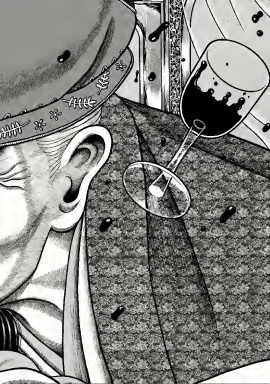




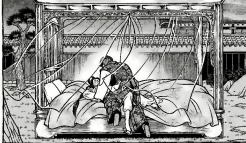












近衛信尹

Nobutada Konoe

1565(永禄八)年生まれ。五摂家のひとつ、名門近衛家の家系で蘭蘭白。公家ながら武士に親近感を持ち、精悍出陣の際は蘭蘭。秘宝しようとした。反逆川の旗手としてレジスタンス活動中。我が国で初めて本格的なカレーを食した御仁(隆定)。好きな色、ゴールドデンロッド。



板倉勝重

Katsushige Itakura

1545(天文十四)年生まれ。僧侶から還俗し、三河時代の家康に仕える。江戸~蘭蘭の民政に優れた手腕を発揮。京所司代として長い活躍を見せる名パイプラー。大岡越前や源山の金さんの活躍は、すべて板倉が原型ともいう。好きな色、ディープスカイブルー。

おくに Okuni

1572(元龜三)年生まれ(諸説あり)。世に言う出雲阿国。出雲大社の巫女として、ややこ騒りで諸國を巡回。独自のかぶき踊りを創案し、上流から庶民まで人々を魅立ちにさせる。日本初の本格的ダンサー。本作では独断電伊達殿の愛人。好きな色、ディープピンク。



古田重嗣 Shigetsugu Furuta

1578(天正六)生まれ(推定)。古田織部の子。豊吉の死後、織部が隠居、山崎国西の関三万五千石を譲られる。かぶき男・後田左門と親しく、通称な徳川の治世にギザギザハートな反骨心を隠さない。好きな色、ディープパープル。



へうげモノ 18

豊臣合戦から徳川幕府へ、
マッパポン 織部がゆく!
'14年春発売予定!!

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE

Hyouge Mono

17 ●
KIDANSHA

交響曲第9番ニ基調 / Gounod Master 1999

City Baby / JAMES LYNN JOSELYN 1971
Green 1966

歌集三人衆 / 宇沢ハチロー 1939

Robertson's Figures (再録付録) 1950

The Sweetest Taboo / SADE 1985

ほとけの首 先生 / 阿部サカエ 1972

Story Baby, Baby, Baby / JAMES GAGGIN 1972

I Feel Fine 1967

John Gons Memory (付録) 1970

大江戸恋物語 オートマチック 1971

歌でつづる現代 / The KINGS 1969

THE SINGER OF THE SONGS (1972) (再録付録)
THE SINGER OF THE SONGS (1972) (再録付録)
THE SINGER OF THE SONGS (1972) (再録付録)
THE SINGER OF THE SONGS (1972) (再録付録)

2234

MORNING KC

※収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、コミックス発売当時のまま掲載しています。

eBOOKで
快適読書生活



<http://www.ebookjapan.jp>

電子書籍版

へうげもの
17

山田芳裕

© 山田芳裕 / 講談社

Digital Distributor
eBook Initiative Japan Co.,Ltd.
<http://www.ebookjapan.jp>
